

第2章 生涯学習プラン策定の背景

1 国、東京都、本市の動向

(1) 国の動向

平成 27 年（2015 年）12 月、中央教育審議会答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」が出され、地域の様々な機関や団体等がネットワーク化を図りながら、学校・家庭及び地域が相互に補完し、地域全体で学びを展開していく「子どもも大人も学び合い育ち合う教育体制」の構築による学校・家庭・地域の連携と協働の在り方が示されました。

この答申を受け、国は、保護者だけではなく幅広い地域の人とともに、地域全体で子どもたちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」を推進するために、平成 29 年（2017 年）3 月に社会教育法を改正しています。

そして、平成 30 年（2018 年）6 月、国は「第 3 期教育振興基本計画」を策定し、人生 100 年時代における生涯を通じた学びの機会の保障など、今後の社会の変化を見据えた教育政策の重点事項を示すとともに、教育の目指すべき姿の実現に向けて、個人の視点として「自立した人間として、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造する人材の育成」を、社会の視点として「一人一人が活躍し、豊かで安心して暮らせる社会の実現」及び「社会（地域・国・世界）の持続的な成長・発展」を目指すとししました。

(2) 東京都の動向

「東京都教育ビジョン(第 4 次)」は子どもの教育に特化した計画として、「子供の「知」「徳」「体」を育み、社会の持続的な発展に貢献する力を培う」と「学校、家庭、地域・社会が相互に連携・協力して子供を育てる」を基本方針に据え、「情報化や国際化など急速かつ激しく変化するこれからの社会を主体的・創造的に生き抜いていく子供」の育成を掲げています。

(3) 本市の動向

八王子市は、平成 27 年（2015 年）4 月に中核市へ移行し、平成 29 年（2017 年）に市制 100 周年を迎えました。新たな 100 年のスタートに合わせ、中核市移行によって拡大した事務権限とこれまでの施策の取組状況を踏まえ、平成 30 年（2018 年）3 月に、「八王子ビジョン 2022」を改定しました。

八王子市教育委員会は、国及び東京都の教育政策、社会を取り巻く環境の変化、本市のまちづくりを踏まえた上で、「八王子ビジョン 2022」に掲げる「生き活きと子どもが育ち、学びが豊かな心を育むまち」を実現するため、今後 10 年間を見据えた八王子の目指す教育の姿を掲げ、当面 5 年間を計画期間とした「第 3 次八王子市教育振興基本計画」を策定しました。

2 生涯学習施策の現状と市民の取組状況

(1) 前プランによる取組状況

八王子市生涯学習審議会では、前プランの計画期間中に実施された生涯学習に関連する市の事業を対象に、調査・審議・評価を行う関連事業評価を行っています。

ここでは、前プランに掲げた4つの生涯学習推進の柱ごとに、どのような取組が行われてきたか、成果をまとめました。

1 子どもの頃から始める学びの基礎づくり	
子どもたちが健やかに育ち、豊かな人生を歩むための基礎づくりとして、子どもたちに学びと体験の機会を提供します。また、家庭での教育を支援するとともに、地域とつながる学校づくりを支援し、地域や市民団体、NPO 法人、学校、企業などと連携・協働して、地域全体で子どもの学習・体験活動を充実させていきます。	
主な取組と成果	市の施設や、各所管において、様々な講座や自然体験、スポーツ・レクリエーションのイベントなどを実施し、子どもたちが豊かな人生を歩むための基礎づくりとして、学びと体験の機会を提供しました。 平成29年(2017年)にはこども科学館がリニューアルオープンし、子どもから大人まで多くの市民に科学に関する知識の普及・啓発ができました。 「パパママ支援ワークショップ」をはじめとした、子育て世代に学びや悩みを共有できる機会を提供することで、保護者の疑問や不安の軽減に結びつけることができました。また、家庭教育啓発リーフレットを見直し、家庭教育の啓発を行いました。 「放課後子ども教室」では、地域・学校と連携し、放課後の安全・安心な居場所づくりに取り組むとともに、実施日数の増加や学習プログラムの拡充を図りました。また、地域の人や高齢者の参画により世代間交流が生まれました。
2 誰もがいつでもどこでも学べるしくみづくり	
誰もが、いつでも、どこでも生涯にわたり学ぶことができるよう、読書やスポーツ・レクリエーションをはじめ、多様な学習の機会を様々な場所で提供します。市民が持っている知識と経験が活かされるよう、市はコーディネーターとしての役割を果たし、学習の内容を充実させていきます。	
主な取組と成果	文化芸術からスポーツ・レクリエーション活動まで、本市の特色を活かしたイベントや講座、展示など幅広く展開しました。 生涯学習センターにおける「市民自由講座」のほか、「八王子学園都市大学」など、子どもから高齢者まで幅広い世代に対して、ニーズを捉えた講座を設定することで多様な学習の機会を提供しました。 「はちおうじ出前講座」の内容を充実し、身近な場所での学習活動を支援することにより、市民が気軽に学習に取り組む環境づくりを進めています。 夢美術館における展示や、オリンパスホール八王子（八王子市民会館）における各種コンサートを通じて、市民に身近な場所で優れた文化芸術作品を鑑賞する機会を提供しました。 「読書のまち八王子」の推進としては、ブックスタート、電子書籍の導入、図書館システムの更新、学校図書館システムの導入、地区図書室の図書館化などの事業を展開し、子どもから高齢者まで、多世代にわたる市民の読書環境を整備しました。

	シニアボランティアによるパソコン教室など、技能を持つ高齢者をシニアボランティア講師として講座を実施し、高齢者・障害者の教養の向上とともに、高齢者の生きがいづくりや交流を促進することにより、地域の活性化に寄与しました。 共生社会の実現に向けた学びとして、障害のある人の人生を豊かに過ごすきっかけとなる取組は重要であり、「パソコン・タブレット学習会」は、多くの受講者の生活の向上に寄与しています。
3 学習成果を活かし市民がつながる生涯学習の推進	
生涯学習を通じて得た知識や経験が個人にとどまらず、社会や地域での活動に活かされ、人とひととの交流が新たな学びや生きがいをもたらすという学習成果の循環をめざします。この循環の実現のため、ボランティア・指導者の育成やイベントの実施を通じて市民のネットワークづくりを支援し、市民団体やNPO法人などと連携・協働した、新たな生涯学習のしくみづくりに取り組みます。	
主な取組と成果	行政と市民による生涯学習社会の実現のため、「生涯学習コーディネーター養成講座」や「はちおうじ志民塾」など、市民が地域社会への参加意識を高めるための取組や、地域活動のきっかけづくりとなる事業を展開してきました。また、各種ボランティア養成講座などの人材育成講座を開催するほか、郷土資料館や八王子城跡におけるガイドボランティアなど、市民のもつ力を活かした学習活動の支援を行いました。 「生涯学習フェスティバル」をはじめとしたイベントの開催により、市民の日頃の学習の成果を発表できる場を提供するとともに、参加した市民の交流の機会となりました。 また、「八王子まつり」や「八王子いちょう祭り」をはじめとする地域行事を通して、市民交流の活性化を図るほか、「八王子環境フェスティバル」や「健康フェスタ・食育フェスタ」など、市民や市民団体、企業やボランティアなどと連携・協働による地域活性化の取組を幅広く展開してきました。
4 生涯学習環境の充実	
生涯学習活動を始めたい市民、学習をより深めたい市民などに対し、講座、サークル活動、ボランティア参加などの情報を分かりやすく提供するとともに、相談体制を拡充させます。また、生涯学習施設、市民センター、各種スポーツ施設、学校施設など、市の有する施設を積極的に市民に提供するとともに、大学や企業などと連携し、市民の学習の場がさらに広がるよう、生涯学習環境の充実を図ります。	
主な取組と成果	講座、イベント、講師やサークルなどの生涯学習に関する情報を、市の広報紙やホームページを通じて広く発信してきました。また、近年では、SNSによる情報発信の取組の充実を図るなど、様々な媒体を用いて、わかりやすい情報の提供を進め、市民の学習活動をサポートしてきました。 市民の生涯学習活動の場として、生涯学習センターや市民センター、各種スポーツ施設を提供するほか、生涯学習センターにおける「フリースペース」事業では、学生の学習の場として空き学習室を開放することで、施設を有効活用しています。 「姫木平自然の家」では、恵まれた自然環境の中で、自然探究や様々な野外活動と集団生活を通じて、青少年の心身の健全な育成を図る場を提供しています。

(2) 主な生涯学習関連事業の実施状況

①生涯学習センター（3館）の講座開催状況

平成 30 年度(2018 年度)	講座数（講座）	延受講者数（人）
市民自由講座	101	7,273
ゆうゆうシニア講座	28	1,346
青少年講座	26	658
家庭教育関係講座	37	1,014
国際理解講座	3	112
日本語講座	3	1,132
計	198	11,535

②八王子学園都市大学（いちよう塾）の講座開催状況

平成 30 年度(2018 年度)	講座数（講座）	延受講者数（人）
一般講座	230	2,632
公開講座	73	4,585
計	303	7,217

③はちおうじ出前講座実施状況

平成 30 年度(2018 年度)	講座数（講座）	実施件数（件）	延受講者数（人）
市役所編	103	348	33,708
官公署・企業等編	30	2,669	203,820
計	133	3,017	237,528

④八王子「宇宙の学校」実施状況

平成 30 年度(2018 年度)	定員（人）	実施回数（回）	延参加組数（組）
教育センター会場	76	4	266
東京工大大会場	90	4	322
都立八王子北高会場	40	4	136
計	206	12	724



▲宇宙の学校での熱気球の実験

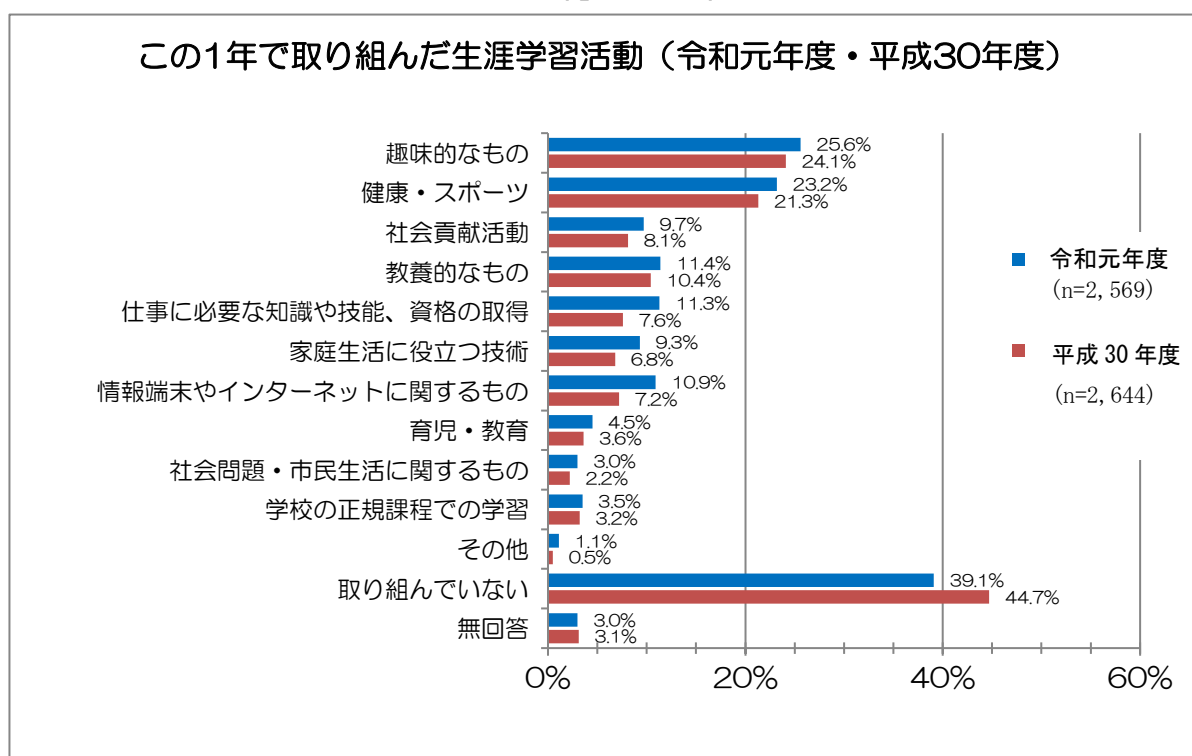
(3) 市民の生涯学習活動の取組状況

本市では、市民の生活意識、市の施策に対する評価及び市政への要望を把握し、本市の市政運営の資料として活用するため、毎年市政世論調査を実施しています。

調査項目には、毎年、「八王子ビジョン 2022」の施策指標に関するものがあるほか、平成30年度（2018年度）では生涯学習活動に関する調査項目を増やして実施しました。

○この1年間に取り組んだ生涯学習活動（令和元年(2019年)調査）

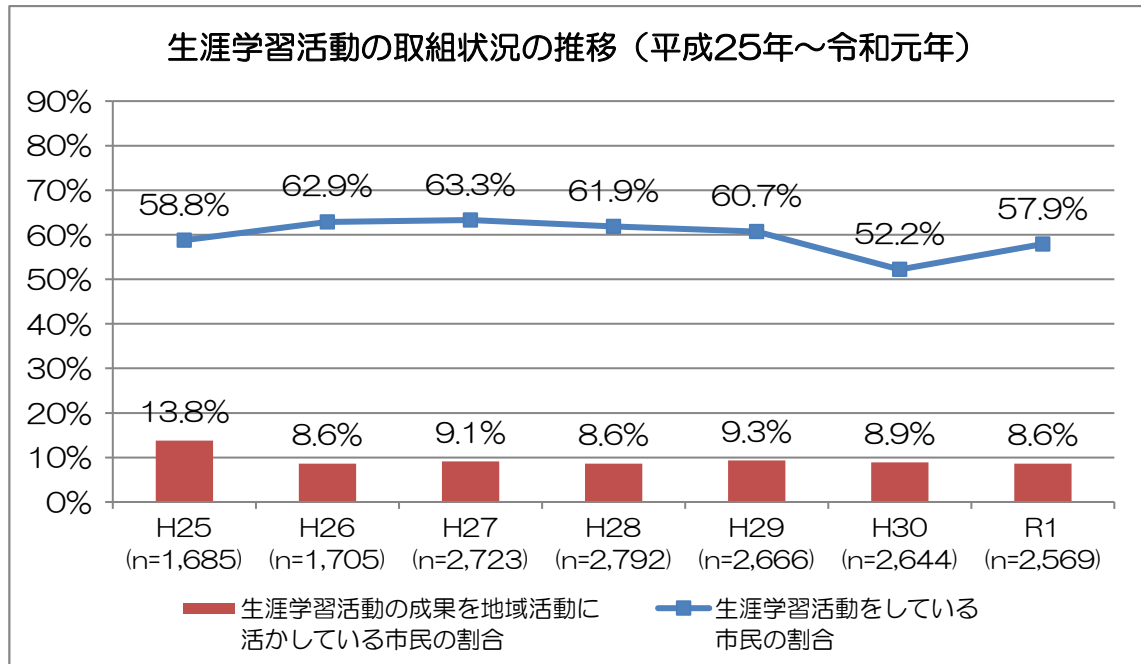
この1年間に取り組んだ生涯学習活動を聞いたところ、「取り組んでいない」（39.1%）を除くと、「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」（25.6%）が最も多く2割台半ばとなっています。次いで「健康・スポーツ（健康法、医学、ジョギング、水泳など）」（23.2%）が2割強で続き、以下「教養的なもの（文学、歴史、科学、語学、時事問題など）」（11.4%）などの順となっています。



前回までの調査と比較すると、生涯学習活動の各項目の回答比率は、上位項目を中心に、全ての項目で前年（平成30年（2018年））調査の比率を上回っています。また、「取り組んでいない」が、前年（平成30年（2018年））調査（44.7%）より5.6ポイント減少する結果（39.1%）となっています。

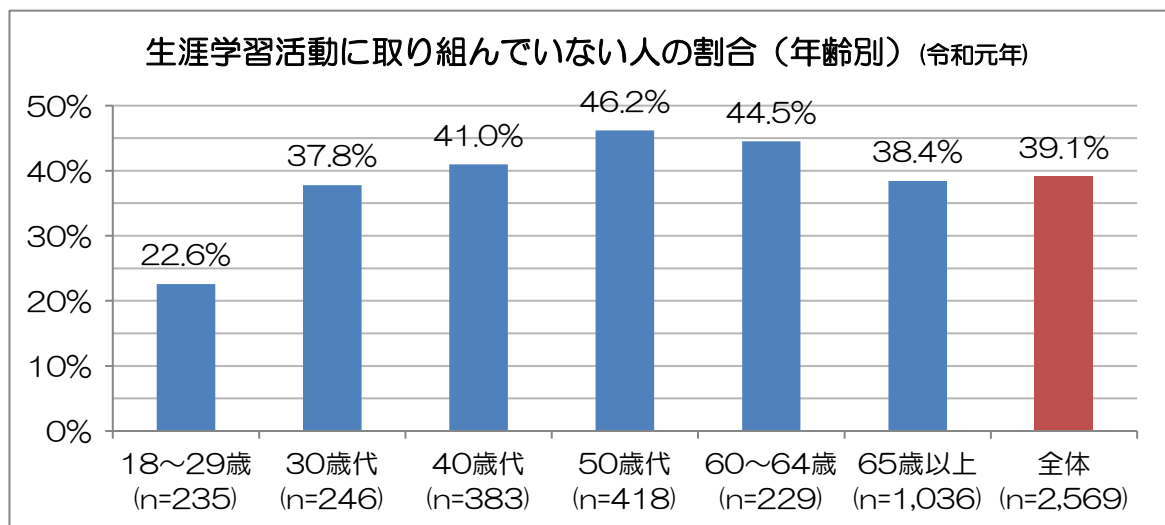
○生涯学習活動をしている市民の割合の推移

また、生涯学習活動をしている市民の割合をみますと、平成25年（2013年）が58.8%で、平成26年（2014年）には4.1ポイント回復して62.9%、平成28年（2016年）で61.9%、平成30年（2018年）は52.2%と低下しましたが、令和元年（2019年）では57.9%と5.7ポイント回復しています。



○年齢別生涯学習活動に取り組んでいない人の割合（令和元年（2019年）調査）

「学習活動に取り組んでいない」という回答を年齢別にみると、30歳から64歳までの年齢、いわゆる「現役世代」と言われる年代で多くなっています。

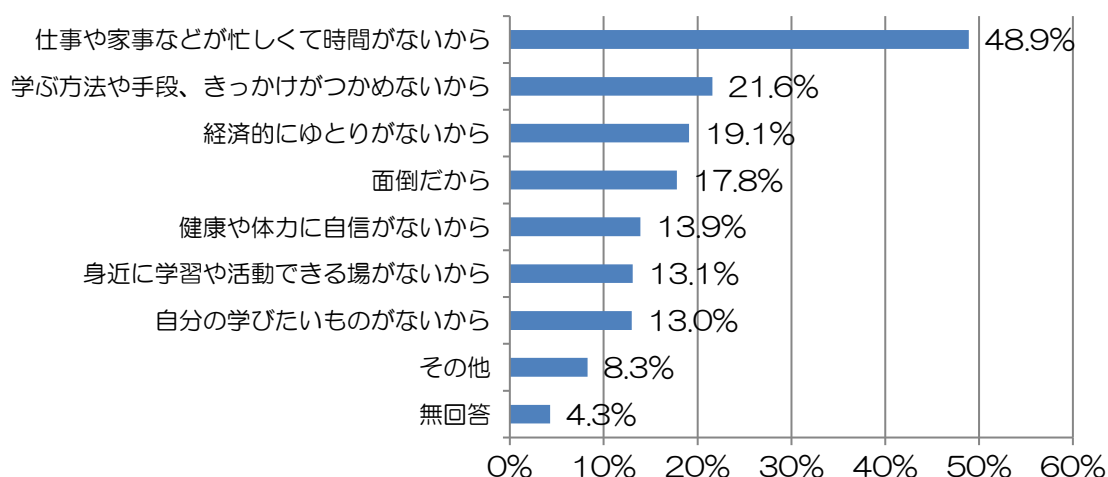


○生涯学習活動に取り組んでいない理由（平成30年（2018年）調査）

平成30年（2018年）の調査になりますが、「この1年間に生涯学習活動に取り組んでいない」と回答した市民に、生涯学習活動に取り組んでいない理由を聞いたところ、「仕事や家事などが忙しくて時間がないから」（48.9%）が最も多く5割近くとなっています。

2位以下は「学ぶ方法や手段、きっかけがつかめないから」（21.6%）、「経済的にゆとりがないから」（19.1%）、「面倒だから」（17.8%）などの順となっています。

生涯学習活動に取り組んでいない理由（平成30年）（n=1,183）



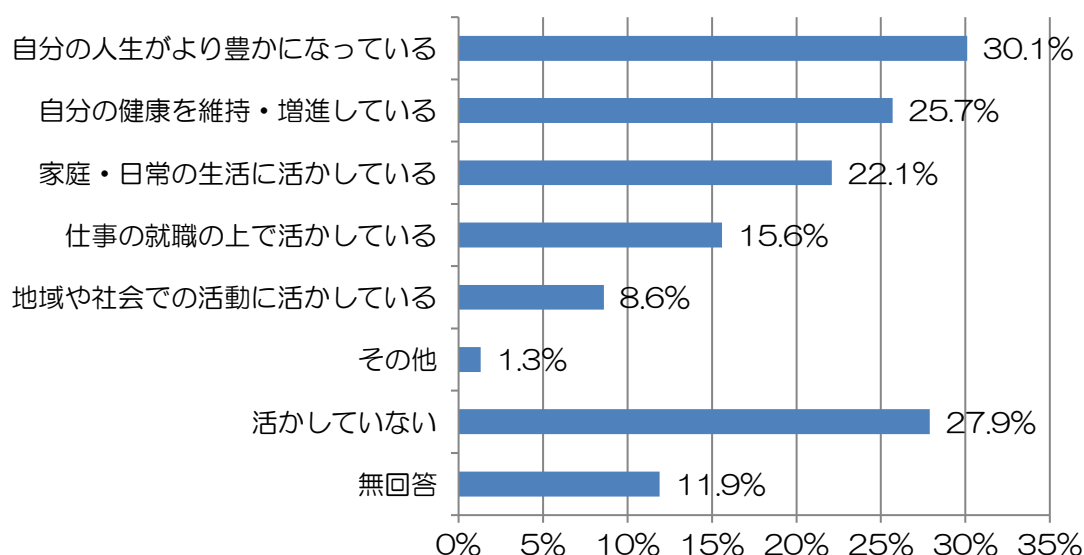
○生涯学習で得た知識や技能、経験の活用方法（令和元年（2019年）調査）

生涯学習で得た知識や技能、経験をどのように活かしているか聞いたところ、「自分の人生がより豊かになっている」（30.1%）が約3割と最も多くなっています。以下「自分の健康を維持・増進している」（25.7%）、「家庭・日常の生活に活かしている」（22.1%）、「仕事や就職の上で活かしている」（15.6%）などの順となっています。

年齢別にみると、「自分の人生がより豊かになっている」は18～29歳（46.4%）で5割近くと多く、「自分の健康を維持・増進している」は65歳以上（32.6%）で3割強と多くなっています。「仕事や就職の上で活かしている」は低い年代ほど割合が高くなっており、18～29歳（32.8%）で3割強と多くなっています。

学習、スポーツ・レクリエーション活動、文化芸術活動などの指導や、町会・自治会活動、PTA活動、ボランティア活動など「地域や社会での活動」に活かしている市民の割合は、8.6%でした。この数値は、調査を始めた平成21年（2009年）から10%前後で毎年推移しています。

生涯学習で得た知識や技能、経験の活用方法（令和元年）（n=2,569）



(4) 関連事業評価の結果

生涯学習関連事業評価において、参加者数又は満足度の目標を達成した事業の割合は、おおむね9割を超えています。

生涯学習関連事業の事業評価の結果、事業数及び達成数・達成率は次表のとおり、3年間で実施事業数は17%、達成事業数は20%増加しています。

基本施策	平成27年度（2015年度）			平成30年度（2018年度）		
	事業数	達成数	達成率%	事業数	達成数	達成率%
①子どもの頃から始める学びの基礎づくり （夏休み子どもいちょう塾・親子料理教室など）	91	83	91.2	96	85	88.5
②誰もがいつでもどこでも学べるしくみづくり （出前講座・学園都市大学公開講座など）	209	201	96.2	273	249	91.2
③学習の効果を活かし市民がつながる生涯学習の推進 （八王子市民文化祭・生涯学習フェスティバルなど）	73	70	95.9	94	88	93.6
④生涯学習環境の充実（生涯学習センター 空き会議室を勉強スペースとして開放など）	47	38	80.9	38	37	97.4
合 計	420	392	93.3	501	459	91.6

○平成30年度生涯学習審議会評価（「平成30年度生涯学習関連事業評価」から抜粋）

年間を通して数多くの事業が展開されており、社会の変化やそれに伴う市民ニーズの変化に対応し、生涯学習環境は充実しているといえる。個々の事業においては、改良を重ねながら、一層の充実を図りたい。全体を通しては、現役世代を対象としている事業が少ないと感じる。子どものころから始まった学びの基礎が、生涯にわたって継続されるよう、つながりのある施策展開を期待する。

また、市民への学習・体験機会の提供について、生涯学習センターや図書館等に市民が足を運ぶのみならず、はちおうじ出前講座のような、行政から市民のもとに出向く講座を開催するなど、市民により積極的に学ぶ機会を働きかける、アウトリーチを意識した取組が今後広がることを期待したい。

さらに、本市の学園都市であるという特色を活かし、大学等との連携や学生の力を活かした取組の更なる拡充により、生涯学習の一層の充実を図りたい。

生涯学習関連事業に関する評価を実施する目的を考慮すると、各事業の実施意義を確認しながら課題を把握し、具体的な改善を図ることが重要である。そのために、評価方法については、八王子市生涯学習審議会の意見が反映されて評価指標項目が設けられたが、今後は、事業ごとに「参加者数」「参加者満足度」「事業の拡充」「協働の推進」の4つの評価指標項目により評価し、それらの経年変化から事業の成熟度がわかるような仕組みを取り入れていただきたい。

(5) 取組結果と課題

○生涯学習関連事業と市民の生涯学習活動の取組状況

生涯学習関連事業を「生涯学習活動の種類」ごとに分類したところ、一番多かったものが、「趣味的なもの・教養的なもの」で、224 事業、全体の 44.7%であり、町会・自治会などの地域活動、ボランティア、NPO、市民活動などの「社会貢献活動」は 79 事業・15.7%、家庭教育、幼児教育、教育問題などの「育児・教育」は 53 事業・10.6%、少子高齢化、情報化、環境、介護、国際交流などの「社会問題・市民活動に関するもの」は 51 事業・10.2%でした。

これに、令和元年の市政世論調査報告書による「市民がこの 1 年間に取り組んだ生涯学習活動（複数回答あり）」の市民の取組率の値を加えたものが、次の表です。生涯学習活動の種類の中には、事業を実施している割には市民の取組率が比較的に低いものもあり、学びが地域活動等に活かせるよう、生涯学習関連事業の効果的な事業展開が求められます。

生涯学習活動の種類（市政世論調査の分類から）	事業数	構成比	市民の 取組率
趣味的なもの・教養的なもの （音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動などや、文学、歴史、科学、語学、時事問題など）	224	44.7%	37.0%
健康・スポーツ （健康法、医学、ジョギング、水泳など）	85	17.0%	23.2%
社会貢献活動 （町会・自治会などの地域活動、ボランティア、NPO、市民活動など）	79	15.7%	9.7%
育児・教育 （家庭教育、幼児教育、教育問題など）	53	10.6%	4.5%
社会問題・市民活動に関するもの （少子高齢化、情報化、環境、介護、国際交流など）	51	10.2%	3.0%
家庭生活に役立つ技術 （料理、裁縫、日曜大工など）	3	0.6%	9.3%
仕事に必要な知識や技能、資格の取得	3	0.6%	11.3%
情報端末やインターネットに関すること	3	0.6%	10.9%
学校（高等・専門・各種学校、大学、大学院など）の正規課程での学習	0	0	3.5%
合 計	501	100%	

○「八王子ビジョン 2022」目標値に対する現状値

「八王子ビジョン 2022」には、目指す姿の実現に向け、進捗状況をはかるため、施策を代表する指標とその数値目標を掲げています。

施策番号 22「市民がつながる生涯学習」における目標設定は、「生涯学習活動をしている市民の割合」と「生涯学習活動の成果を地域活動に活かしている市民の割合」であり、目標値とその達成状況は、次表のとおりです。

「八王子ビジョン 2022」の目指す姿の実現に向け、目標値と現状値を踏まえた施策の着実な展開が必要です。

施策に対する指標	目標値 (令和 4 年度)	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元年度
生涯学習活動をしている市民の割合	90%	63.3%	61.9%	60.7%	52.2%	57.9%
生涯学習活動の成果を地域活動に活かしている市民の割合	40%	9.1%	8.6%	9.3%	8.9%	8.6%

○八王子市生涯学習審議会から出された課題

平成 31 年（2019 年）3 月 18 日付八王子市生涯学習審議会答申「八王子市の生涯学習の振興方策について」では、主に次のような課題を掲げています。

基本施策（前プラン）	主 な 課 題
①子どもの頃から始める学びの基礎づくり	・子どもが日本の伝統的生活スタイルに触れる機会や様々な体験をする機会が不足している。 ・学校と家庭、さらには地域が連携し取り組む必要があり、子どもの豊かな人生へと繋がっていく環境づくりが重要である。
②誰もがいつでもどこでも学べるしくみづくり	・人生 100 年時代を迎え、より長い人生をそれぞれの人がその人なりに豊かに生きていくために、本市の状況に合う人生 100 年時代を見据えた生涯学習、障害者の生涯学習や大学生との協働による生涯学習などを推進する必要がある。
③学習の成果を活かし市民がつながる生涯学習の推進	・学ぶことを楽しめるのは素晴らしいことであり、生涯学習の原点であると言える。また、学びは自分だけで完結するものではなく、自分と他者をつなぐ役割も持ち合わせている。自らの興味に基づき、地域の課題を発見するとともに、学びにより人と人につながっていく環境づくりに取り組んでほしい。
④生涯学習環境の充実	・わかりやすく生涯学習情報を提供することが必要である。